プロフィール

所在地	静岡県浜松市
団体名	社会福祉法人引佐すみれの会　引佐草の根作業所
活動名称	心身障害者への生涯学習支援、地域との交流行事開催
こんな活動です	仕事も活動も笑顔全開！！
連携している団体等	社会教育関係団体、ＮＰＯ法人、文化芸術活動を行う団体、行政（保健・福祉部局、引佐協働センター）、舞踊・ダンスの講師、社会福祉協議会

功 労 者 表 彰

活動分野
文化
主な対象
障害者（知・精・身・発達）
団体の規模
障害者　23 名 職員数　12 名

活動の説明

①　活動内容	１９９０年、在宅の心身障害者に仕事を通じて働く喜びを与え、地域社会の一員として生活することを促進し、その自立助長によって一般社会に復帰することを目的に引佐草の根作業所を設立。幅広い年齢の利用者が、仕事をはじめ様々な活動を行っている。 月１回、ダンスや歌の練習を行い、各種団体のイベントで披露している。また、１１月に開催される引佐協働センター地域ふれあいフェスタ（引佐文化祭）に出展する作品の制作、地域の合唱団との合同発表に取り組んでいる。 引佐地区社会福祉協議会主催のふれあい広場、北区女性団体連絡協議会主催のきたっこフェアなどでダンスを披露することで、利用者の社会参加、地域の方との交流を図っている。地域の支援団体の協力を得て自らも草の根カラオケフェスティバル実行委員会を立ち上げ、地域の方も参加していただくイベントを開催している。
②　活動体制	月１回の踊り、歌の練習には地元のボランティアによる講師を招きレッスンを受けている。また、地域の合唱団との合同発表に参加させていただくことで、社会性の向上に努めている。 各種団体のイベントへの参加、草の根カラオケフェスティバルを開催することで、地域交流、障害者への理解を深めていただいている。
③活動の効果等	ダンス、歌の練習を通じ、身体機能の維持を図ることができている。また、踊る、歌う楽しさを体感できる機会を提供するとともに、定期的な発表の場があることで、達成感、充実感を得る機会となっている。さらに、元気な踊りを観た方から「ダンスを教えてほしい」という依頼が数回来ており、活動の励みとなっている。これからも、地域の方々に障害者への理解を深めていただけるように努め、より多くの方にかかわっていただける体制作りを進めていきたい。

活動の様子

草の根カラオケフェスティバル

引佐文化祭（引佐虹の輪合唱団と合同発表）

プロフィール

所在地	京都府京都市東山区
団体名	特定非営利活動法人 障碍者芸術推進研究機構
活動名称	障害者の生涯にわたる芸術活動の推進・支援
こんな活動です	“京都で天才アーティストを育む！” ～障害のある人も才能を発揮し主体的に生きる！～
連携している団体等	特別支援学校、ＰＴＡ、大学、文化芸術団体、社会福祉法人、企業、行政機関（京都市、京都市教育委員会）等

功 労 者 表 彰

活動分野
文化
主な対象
創作活動に熱心に取り組む特別支援学校在校生・障害者等
団体の規模
理事長・副理事長２名・理事５名・監事１名・顧問３名

活動の説明

①活動内容	平成 20 年～23 年度文部科学省の「芸術大学等の芸術専門家の派遣によるアート制作活動」事業の委託により取組を始めた中で、次々と才能が開花しすぐれた作品が生まれた。しかし特別支援学校卒業後は「制作の場がなく筆を折る状態」があり、「卒業後も生涯にわたり芸術創作活動を持続できる」よう、平成 22 年、関係者が集まりＮＰＯ法人を設立。芸術活動による自立と社会参加の促進を目的とする。 １．制作会事業；創作の場の提供／新道アトリエ（東山区）／床面積 384 ㎡（アトリエ 4 室スタジオ他 3 室） ２．作品保存事業；これまで作品 3,000 点を収蔵／デジタル画像 1300 点をアーカイブ済 ３．作品展示事業；これまで展覧会を 17 回開催／延日数 180 日／延入場者数 15,208 人 ４．アーカイブ活用事業；アーカイブをデータベース化しＨＰ上で企業等に提供／著作料の還元 ５．原画販売事業；原作品を展覧会の場等を通じて販売する／国内ならびに海外展開 ６．広報事業；ＨＰ開設　会報『天才アート』発行／季刊・Ａ４判８ｐ総カラー3500 部／通巻 21 号 ７．表現・創作過程研究事業；大学や研究機関等との共同研究等（企画検討中）
②活動体制	活動体制として、芸術系大学教員等の専門家、特別支援教育の関係者、障害福祉の関係者等８名の役員と常勤アートデイレクター1 名、非常勤事務職員１名、登録ボランティア６名で構成し、企画運営している。また、京都市関係部局・京都市教育委員会等の行政機関、大学・企業・ＮＰＯ等と連携をすすめている。
③活動の効果等	➢設立当初 15 名であった登録作家は 44 名まで増加。学校卒業後も制作活動を継続している人のほか、中高年でひきこもり状態にあった人が制作会を通じて社会復帰できるようになった事例も増えている。 ➢展覧会、会報等、公共空間でのパネル展示等で、「リピーター」としてのファン層が増えている。 ➢企業との連携やコラボも４社・１団体が進行中。特に作品アーカイブの活用案件が増えている。 ➢行政との連携も、補助金によるイベント事業や障害者芸術振興の委託事業案件を通じて増えている。

活動の様子

新道アトリエ（東山区）での制作活動

主催展覧会（堀川御池ギャラリー/下京区）

プロフィール

所在地	福岡県福岡市
団体名	大濠公園ブラインドランナーズクラブ
活動名称	ジョギングやウォーキングを希望する視覚障がい者を伴走者としてサポートする活動
こんな活動です	伴走は、信頼関係で（気配り）安全に、楽しく、気持ちよく、絆で走ること
連携している団体等	行政（スポーツ）

功 労 者 表 彰

活動分野
スポーツ
主な対象
視覚障害
団体の規模
世話人 2 名　会員数 150 名 （うち視覚障がい者 50 名 伴走者 100 名）

活動の説明

①活動内容	●月に２回、大濠公園（福岡市中央区）と春日公園（福岡県春日市）で視覚障がい者と伴走者がマンツーマンでジョギングやウォーキングの練習会を開催し、年に数回は各地で開催されている市民マラソン大会などに合同で参加しています。 ●初めて走る視覚障がい者や初めて伴走する伴走者への指導・助言や練習時に視覚障がい者の走力に合わせて伴走者との組み合わせを決めることで、視覚障がい者が快適に練習や大会に参加できるよう心がけています。 ●２０１９年より「福岡マラソン 2019（主催：福岡市等／11 月 10 日開催）」と連携し、同大会が取り組んでいる「障がい者チャレンジ応援プロジェクト」に協力しています。
②活動体制	●練習会や大会の案内はパソコンやスマホ等でやりとりできるメーリングリストを使用。案内だけでなくメンバー内の情報交換も盛んです。 ●練習会や大会時には他のランナー等への注意喚起目的でビブス（「視覚障害」「伴走」等書かれたベスト）を着用して歩いたり走ったりしています。
③活動の効果等	●視覚障がい者の運動（ジョギングやウォーキング）するきっかけや伴走者として協力したいと思っている晴眼者の窓口となっています。 ●メーリングリストや練習会がコミュニティの場となっています。 ●大濠公園ブラインドランナーズクラブからパラリンピックメダリスト（道下美里選手：リオデジャネイロパラリンピック銀メダリスト）が誕生しました。

活動の様子

練習会（練習前のミーティング風景）

練習会（練習風景）

プロフィール

所在地	熊本県熊本市
団体名	社会福祉法人西部福祉会
活動名称	中島小学校とゆたか学園の交流
こんな活動です	学び合い、協力し合い、楽しみながら ゆたかな心のつながりを！
連携している団体等	小学校、中島校区自治協議会

活動分野
学習、スポーツ、 文化、まちづくり
主な対象
知的障害
団体の規模
職員数　35 名

活動の説明

①活動内容	ゆたか学園開設以来、中島小学校との交流事業を実施。当初は、施設がどんなものか、どのような人が住んでいるのか、施設が閉鎖的な場所ではないことを地域の方に伝えていこうということで事業を開始した。交流を深めていく中で、住民とのつながりが出来てきた。様々な人と関わり合うことは、利用者の生活を豊かにするとともに成長へとつながっている。さらに交流の中で小学校の児童の心の成長もうかがうことができた。そのような思いから、開設以来、交流（つながり）をずっと大切にしている。 現在では、各学年の成長に合った交流事業を全学年で実施しており、6 月のサツマイモ植えや 11 月の収穫、児童を学園に迎え入れて学園の職員が児童の質問に答えながら学園の紹介や利用者の生活の様子のお話をする「ゲストティーチャー」事業、運動会などのスポーツ交流、学習発表会にて児童と利用者が一緒に歌とダンスを披露する文化交流等々、様々な交流を年間スケジュールに組み込み、活動している。一年を通し、小学校の児童・職員、ゆたか学園の利用者・職員全てがいずれかの交流事業に参加している。
②活動体制	年間を通して計画的に交流を実施するとともに児童の成長に合わせた事業とするため、小学校職員と協力しながら事前に事業計画を作成している。その後は各学年の先生と詳細を詰めながら実施し、実施後は反省会を行い、次年度の事業へ活かしている。また、地域の方を交えた交流も重ねている。
③活動の効果等	約 30 年間継続して小学校と交流を深めており、今では年間を通して様々な交流を行っている。学園の広報誌を回覧板で積極的に地域へ広報しており、地域での理解も深まり、地域住民と利用者との触れ合いが増え、校区体育祭への利用者の参加や公園の掃除など地域活動へと発展し、社会参加の促進となっている。児童と利用者がお互いに自然に話しかけたり、名前で呼び合ったりする姿も地域の中で見受けられる。交流は、学び合い、協力し合い、楽しみながら、利用者と児童の心の成長にもつながっている。障害がある人もない人も誰もが共に住みやすいまちづくりの取り組みとして今後も継続していきたい。

活動の様子

中島小学校運動会の様子

中島校区老人会との交流会で一緒に歌とダンスを披露

プロフィール

所在地	東京都新宿区
団体名	松本　久美子
活動名称	音訳図書制作・対面朗読 音訳者養成講座・スキルアップ講座の指導
こんな活動です	視覚による情報取得が困難な方のために本などを音声化する活動です
連携している団体等	図書館、社会福祉法人、社会福祉協議会、 他の音訳活動グループ

功 労 者 表 彰

活動分野
学習、音訳
主な対象
視覚障害者、 音訳ボランティアの希望者

活動の説明

①活動内容	１９６９年頃、日本点字図書館で朗読奉仕者（現在の音訳ボランティア）としての講習をうけ、その後、複数の団体でボランティアとして音訳活動を行った。現在も日点所属。活動内容は、録音図書（蔵書・プライベートサービス）制作と対面朗読。録音図書の校正は、日点録音図書制作課パート職員として１９９６年から２１年６ヶ月行った。１９８０年頃から自身の経験を生かして音訳ボランティアに対する指導を開始。２０１９年までに、点字図書館・公立図書館・社会福祉協議会その他の音訳グループ約６０団体において音訳者養成講座・活動中の音訳者のスキルアップ講座を担当。中でも、朝日カルチャーセンター新宿教室では、現在まで約２０年間にわたり初級・応用・処理の講座（全て一年コース）で、多数の音訳者を養成してきた。内容は、音訳の必要性・発声発音の基礎・文の読み方・アクセント辞典・処理（符号記号その他・図や表やグラフ・系図・地図・写真・イラスト・漫画など）・参考資料検索法・校正・対面朗読の仕方など。合成音声など IT 時代。利用者にとっては選択の幅が広がり良い環境なので、人間でなければできない読みを目指して指導している。
②活動体制	録音図書制作は、オープンリールの録音機から始まり、現在はパソコン利用による録音へと変化した。録音場所は、自宅および日点録音スタジオ。対面朗読は日点対面朗読室にて行っている。指導は、朝日カルチャーセンター新宿教室にて、受講生募集に先立ち、予め音訳講座に関する説明会を開催。年間を通じて、初級・応用・処理の三講座で指導。点字図書館・一般図書館・社会福祉協議会その他の音訳グループでの講習は、依頼に応じて行っている。
③活動の効果等	録音図書・録音雑誌などは、サピエ図書館などを通して視覚による読書の困難な方々が多くご利用下さっていると思います。指導者としては、たくさんの音訳者が毎年自立し、地方都市などにおいて指導者として活動しているというお便りをいただくと、指導者冥利に尽きる気がします。より聴きやすい音訳を目指して、私自身可能な限り研修を重ね、次世代の音訳者へと伝えていきたいと思います。

活動の様子

朝日カルチャーセンター新宿教室・音訳講座

日本点字図書館にて

プロフィール

所在地	東京都新宿区
団体名	日本ヘルマンハープ振興会
活動名称	ヘルマンハープで目指す全員参加型の演奏活動
こんな活動です	ヘルマンハープを通しての障害のある方の学びの場づくり 障がいのある方と健常者が奏でるバリアフリー演奏発表会の主催 障がい者理解をテーマにした講演やワークショップの開催
連携している団体等	幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校、大学、短大、専修学校・各種学校、児童館、公民館、図書館、ＰＴＡ、社会教育関係団体、スポーツ団体、ＮＰＯ法人、文化芸術活動を行う団体、社会福祉法人、企画・事業所、病院・保健所、行政（教育委員会、保健・福祉部局、子育て支援）

奨 励 者 表 彰

活動分野
学習、文化
主な対象
知的障害、発達障害、染色体異常、視覚障害
団体の規模
会長 1 名　事務局員数 4 名 ハーピスト会員数　1,811 名 インストラクター会員数 74 名

活動の説明

①活動内容	ヘルマンハープは 1987 年にドイツ人の農場主ヘルマン・フェー氏がダウン症のある息子のために開発した楽器であり、専用の楽譜に記された音符を上から下へとはじくだけで、楽譜が読めなくても伴奏を付けて弾くことができる。 2003 年に、梶原千沙都（振興会会長）が夫の仕事で在欧中に演奏を教会で聴き、ウィーンの知的障害者施設で研修を受けて 2004 年に帰国。現在の日本ヘルマンハープ振興会設立。 以来、ダウン症や知的障がいのある人のための教室を開いて指導をし、全国の有名ホールで、障がいのある人も健常者も出演する「日本ヘルマンハープ振興会演奏発表会」を 2007 年から毎年開催してきた。 また、「大阪ふれあい大会」、「NHK ハートフルミュージック」、「日本ダウン症協会全国大会」、「産経はばたけアートフェスタ」、「大阪・神戸領事館主催ドイツ統一記念日祝賀会」、「千代田区新年交歓会」、「東京都人権啓発センター」などの催しで、障がいのある奏者たちのヘルマンハープ演奏を多数披露してきた。 今後も自信を育てる出演の機会を作っていきたいと思います。
②活動体制	ドイツ本国に存在しなかったヘルマンハープの奏法理論を梶原千沙都が開発し、定期的に障がい者への指導法講習会、ボランティア養成講座、インストラクター養成講座を開催している。日本ヘルマンハープ振興会ではヘルマンハープを通じて障がい者の芸術活動、コミュニティ活動促進を目的として、各会員の地域の施設、学校、公民館、社会福祉協議会などでの演奏会やワークショップの開催などを推進している。
③活動の効果等	全国 130 か所の振興会認定ヘルマンハープ教室のうち、43 教室で障がい者を受け入れている。 2016 年の障がいのある愛好家へのアンケート結果、85 人中 79 人が「ヘルマンハープへの取り組みは、年齢が高くなっても本人の生活を豊かにする余暇活動である」と回答。親子での演奏活動による、より対等な親子関係の構築や、多動性の子どもが 2 年後には 60 分座って練習に取り組めるなどの事例が多数ある。

活動の様子

日本ヘルマンハープ振興会主催演奏発表会で
障がいのある奏者たちが健常者とともに奏でるバリアフリーステージ

知的障がいのある受講生が熱心に練習する
教室の様子

プロフィール

所在地	福岡県福岡市
氏　名	安西　清美
活動名称	障がい者スポーツの普及・促進活動、 障がい者スポーツ指導者の組織化及び活用
こんな活動です	障がい者スポーツの支援と普及・促進・発展
連携している団体等	特別支援学校、スポーツ団体、社会福祉法人、 行政（教育委員会、保健・福祉部局、スポーツ振興）

功 労 者 表 彰

活動分野
スポーツ
主な対象
障がい者

活動の説明

①活動内容	＜福岡障害者スポーツ指導者協議会、障がい者スポーツ指導者協議会九州ブロックでの活躍＞ １９８４年から福岡市立障がい者スポーツセンターに勤務し、障がい者スポーツの普及・促進活動を行う傍ら、障がい者をスポーツ支援する組織として平成 2 年に指導者の組織である九州ブロック連絡協議会を設立、その後、平成 5 年に現在の福岡障害者スポーツ指導者協議会を設立し、障がい者スポーツの発展に尽力した。活動は福岡県内を始め九州地区の障がい者スポーツを支える体制づくりに努めるとともに、九州ブロックの組織運営を通じて九州各県の連携を進め、県を越えた九州各県の協力・連携が図られるようになっている。 ＜日本身体障がい者水泳連盟での活躍＞ 昭和 61 年フェスピックインドネシア大会、昭和 63 年パラリンピックソウル大会、平成 8 年パラリンピックアトランタ大会、平成 14 年 IPC 世界水泳選手権大会に日本代表選手団の役員として参加し、日本選手の活躍に貢献し、平成６年に九州身体障害者水泳連盟を設立。障がい者水泳を中心に九州ブロックでの競技団体の組織化、運営に尽力している。
②活動体制	障がい者スポーツ指導者協議会九州ブロックの会長として 2013 年まで努め、現在は後進の指導や顧問として助言等を得ている。 障がい者水泳は、平成 19 年から日本身体障がい者水泳連盟の理事として、国内の障がい者水泳の普及、強化等に貢献し、現在も活動を行っている。
③活動の効果等	九州各県の指導者協議会をはじめ各県の障がい者スポーツ協会も含めた協力・連携が図られるようになり、各県の担当行政に対して理解と協力関係が深まった。 また、長年にわたり障がい者スポーツに関わる人材の育成や体制づくり、水泳競技の普及、強化を担い、選手の社会的自立、健康の維持・増進、競技力向上が図られている。

活動の様子

活動の様子１

活動の様子２

プロフィール

所在地	大阪府大阪市住吉区
団体名	一般社団法人日本パラ陸上競技連盟
活動名称	1）パラリンピック等国際大会での選手の活躍に向けた事業 2）日本パラ陸上競技選手権大会等国内大会の開催 3）地域でのパラ陸上の普及活動
こんな活動です	陸上競技を通じて、障がいへの理解と社会貢献
連携している団体等	特別支援学校、スポーツ団体、 行政（教育委員会、保健・福祉部局）

功 労 者 表 彰

活動分野
スポーツ
主な対象
身体障がい者及びその関係者
団体の規模
登録選手数約 600 名 理事等・各委員会数約 100 名

活動の説明

①活動内容	1)パラリンピック等国際大会での選手の活躍に向けた事業 パラリンピックをはじめとする、様々な国際大会で、日本の選手が活躍できるよう、選手強化のための強化合宿、海外への選手の派遣を行い、世界に通用する選手の育成及び競技力向上を行っている。また、コーチ等指導者の資質向上も行い、当連盟独自の指導者養成講習会を開催している。現在は、東京2020パラリンピックに向けて、競技に専念しやすい環境整備を行っている。 2)日本パラ陸上競技選手権大会等国内大会の開催 1990年から始まった、日本パラ陸上競技選手権大会は、2019年で30回目を迎えた。全国から選手が集まり、国内最高峰の大会の一つである。また、ブロック大会等の地区4大会の共催・後援開催により、パラ陸上の輪が着実に広がっている。現在、選手登録は約600名、障がい者スポーツ団体の中でも大変大きな団体となった。 3)地域でのパラ陸上の普及活動 各地域で、体験教室などを行い、陸上を通して障がいの理解を深める活動を行っている。生涯スポーツとして、陸上を身近な場所で、気軽に始められる、続けられる環境づくりに取り組んでいる。
②活動体制	1）香川県高松市の協力を得て、2019 世界パラ陸上競技選手権大会（11 月開催）日本代表選手の強化合宿を 2019 年 9 月に開催した。夜の座学では、暑熱対策・アンチ・ドーピング等の講義を行った。 2）2019 年度の日本パラ陸上競技選手権大会は大阪市の後援、大阪陸上競技協会（審判）の主管、また大学生・高校生の補助員（ボランティア）の協力を得て、長居スタジアムで第 30 回目を開催した。また、4 地域大会（北海道・東北、関東、愛知、中国・四国）では、その地域の方々の協力を得て、事故もなく成功裡で大会を終了した。 3）国内強化合宿時に、地元高松市の中学生を対象に車いすレーサーの試乗体験会を開催した。その他、公的な機関からの要請に応じて体験会を行った。
③活動の効果等	1）強化合宿や国際大会の経験を踏まえて、現在、東京 2020 ランキングにおいて、6 位以内の男子選手が実 12 名（延 16 名、内 2 名がランキング 1 位）女子選手実 10 名（延 12 名、内 4 名がランキング 3 位以内）と成績に顕著な成果が見られるようになった。 2）第 30 回大会では世界新記録 3、アジア新記録 8、日本新記録 32 そして大会新記録 64 と年々選手の記録の向上が見られる。このことは、大会開催環境や練習環境（場所、指導者）が以前にもまして整備されてきた証と捉えることができる 3）体験会の様子は下記の写真参照。

活動の様子

第 30 回日本パラ陸上競技選手権大会

体験会の様子 1

体験会の様子 2

プロフィール

所在地	東京都練馬区
団体名	武蔵野音楽大学ミュージックセラピー研究部
活動名称	武蔵野音楽大学ミュージックセラピー研究部の定期活動
こんな活動です	福祉施設や特別支援学校を訪問して、利用者の方々に楽しい「音楽の時間」をお届けしています。
連携している団体等	ＮＰＯ法人、社会福祉法人、病院・保健所

奨 励 者 表 彰

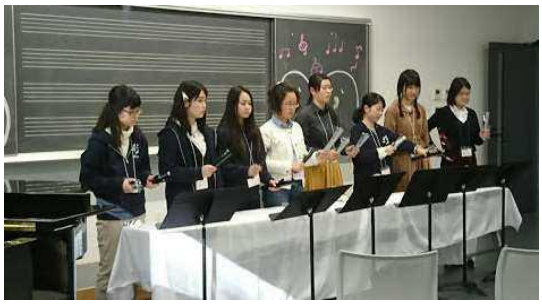
活動分野
文化
主な対象
身体障害、知的障害、特養、老健、デイサービス
団体の規模
職員数　30 名

活動の説明

①活動内容	ミュージックセラピー研究部は、1984 年に音楽を取り入れたボランティア活動を行う課外活動「音楽療法を研究する有志の会」として発足しました。 活動内容は、病院や社会福祉施設を定期的に訪問し、利用者に歌や楽器演奏など音大学生の特性を活かして、音楽を楽しんでいただく活動をしています。演奏する楽曲の中に利用者の名前を取り入れて一緒に歌ったり、利用者が選んだ楽器を鳴らしたり、お一人ずつにご挨拶するなど工夫を凝らしてコミュニケーションを取っています。 また、リラックスタイムとしてマッサージをするなど、利用者と密に関わるプログラムを意識して活動しています。
②活動体制	月に２～３回、部員が施設に出向き活動をしています。活動は〈司会者〉〈伴奏者〉〈サポート〉〈鑑賞者〉の４つの役割に分担し、施設利用者の年代や施設の雰囲気に合わせて、また利用者の特徴に合わせた楽曲や楽器を準備し、利用者全員が楽しめるように工夫をした活動を行っています。
③活動の効果等	これまでの活動の中で、施設利用者の方々や職員の方々から、たくさんの感想と感動の声が寄せられています。利用者の方は毎回楽しみにしてくださり、会が始まると嬉しさを身体いっぱいに表現する利用者の方もいらっしゃいます。 また、施設職員の方からは、音楽を聴くことで笑顔も増え、脳の活性化にもなり、認知症状が落ち着いてきた利用者さんもいらっしゃると伺いました。 音楽は心を動かす力を持ったコミュニケーションツールの一つです。活動をする私たちにとっても、かけがえのない活動となってますので、今後も利用者の方々に喜んでいただけるよう創意工夫し、継続して活動していきたいと思います。

活動の様子

飯沼病院での活動の様子



ミニコンサートの様子

プロフィール

所在地	東京都小金井市
団体名	若竹ミュージカル
活動名称	若竹ミュージカル
こんな活動です	ともに学び、創り、表現する ブロードウェイミュージカル！
連携している団体等	特別支援学校、大学、ＰＴＡ、行政（武蔵野市など）、同窓会、朝日新聞社、ＮＨＫ厚生文化事業団、東京都手をつなぐ育成会、全日本特別支援教育研究連盟等

功 労 者 表 彰

活動分野
文化
主な対象
知的障害者
団体の規模
会員 30 名、指導スタッフ 5 名、保護者支援者数 30 名、オーケストラ 30 名 ※公演時は　支援者約 100 名

活動の説明

①活動内容	【沿革】 1993 年に学校時代に音楽劇などの音楽活動に親しんできた高等部卒業生と教員有志、保護者がミュージカル活動を中心にした生涯学習支援を目的にスタートし、今年で 26 年目に入る。 【活動の目的】 特別支援学校卒業後の①生涯学習支援（余暇支援も含む）、②支援者との交流、③公演等を通じての社会参加と社会包摂への発信を目的に活動している。 【活動内容】 活動メニューは、(1) リレートーク（おしゃべりタイム）と身体ワーク、(2) ミュージカル作品の練習、に分けられる。(2) では、①作品についての学習、②歌、ダンス、芝居の練習、③オーディション、④オーケストラとの合同練習と通し稽古、⑤公演活動などを行っている。これまで、『サウンド・オブ・ミュージック』、『ウエストサイド・ストーリー』、『屋根の上のヴァイオリン弾き』などのブロードウェイミュージカル作品を取り上げ、再演を重ねて学びを深めてきた。 【公演と上映会】 毎年１回のミュージカル定期公演の他、数年に一度の旅公演、ドキュメンタリー映画「空想劇場-若竹ミュージカル物語-」の上映会等を行っている。
②活動体制	本団体は、東京学芸大学附属特別支援学校同窓会「若竹会」に属しているが、独自に若竹ミュージカル運営委員会を設置している。 運営委員会は、演出部（指導スタッフ）及び支援者（保護者およびオーケストラ担当者）、本人（必要に応じて参加）の代表者 10 数名で構成され、活動方針や活動計画を決定している。 指導は演出部（音楽監督、演出担当者、歌唱指導者、ダンス指導者、演技指導者他）が中心になり、全体指導や知的障害者本人の個別指導を行っている。
③活動の効果等	卒業生アンケート(2011)では参加する楽しみについて、「仲間に会えること」、「歌うこと」、「おしゃべりタイム」、「支援者との交流」、「練習すること」、「公演すること」を挙げている。最近では再演を重ねる中で、卒業生の作品の理解や表現の深まりが見られる。支援者の参加が徐々に広がり、公演活動に対する社会的な評価も高まりつつある。 12 月に山形県酒田市より招待を受け社会包摂事業として公演を行う予定。

活動の様子

リレートーク（おしゃべりタイム）と身体ワーク

公演『屋根の上のヴァイオリン弾き』より

プロフィール

所在地	新潟県新潟市
団体名	新潟大学 工学部工学科 人間支援感性科学プログラム
活動名称	新潟大学公開講座 「視覚障がい者のためのパソコン講習」
こんな活動です	視覚障害者でも使いこなせる PC・携帯情報端末！
連携している団体等	新潟県視覚障害者福祉協会、新潟大学医歯学総合病院眼科ロービジョン外来、新潟市障がい者 IT サポートセンター、新潟県視覚障害リハビリテーションネットワーク「ささだんごネット」

活動分野
学習、生活支援、 就学・就労支援
主な対象
視覚障がい者
団体の規模
教員数　9 名 技術職員数　1 名 学生スタッフ数　42 名

活動の説明

①活動内容	・講習の開催：視覚障害者にパソコンや携帯情報端末を活用してもらうために、全 8 回の講習（1 回 2 時間、週 1 回）を年 2 回（春・秋）開催している。 ・募集定員：最大 8 人（平均 6 人） ・広報：新潟大学公開講座案内、新潟県視覚障害者福祉協会・ささだんごネットのウェッブサイト、新潟大学医歯学総合病院眼科・ロービジョン外来の紹介 ・実施体制：完全な個別指導で、教員の指導・管理の下で学生ティーチングアシスタント（以後、学生 TA）が受講生を指導する．新潟市障がい者 IT サポートセンターの支援員（以後、AT 専門員）は原則毎回、全受講生への教育を指導・補佐する。 ・指導内容：情報機器の基本的操作、アプリケーションソフトの使用法、音声パソコンの利用法などで、初回に受講者の希望を聞いて、個別カリキュラムを編成する.
②活動体制	2019 年度の実施体制 １）教員 9 人、技術専門職員 1 人、各受講生に対して 4～6 人の学生 TA（学部 4 年生、修士 1・2 年生）が支援班で担当 ２）技術専門職員は出勤簿管理などを担当 ３）講習は支援班のメンバーがローテーションで対応し、引継ぎ簿および各講習後の支援班会議で情報を伝達・共有し、次回の講習内容を検討する。
③活動の効果等	視覚障がい者に対する継続したパソコン講習は、新潟市では本講習と NPO 法人障害者自立支援センターオアシスによるものしかないため、近年は常に定員を超える申し込みが県内からある。 受講生は、小・中学生から高齢者まで幅広く、習得した情報機器の技能を生活・就学・就労などに生かしている（講習終了後のアンケート調査でも高評価）。

活動の様子

教員による指導・監督

学生 TA と AT 専門員による個別指導

プロフィール

所在地	石川県金沢市
団体名	金沢大学附属特別支援学校兼友親子のつどい
活動名称	兼友親子のつどい
こんな活動です	卒業生が毎月一回、仲間や教員と余暇を楽しみます。
連携している団体等	（社福）金沢手をつなぐ親の会

功 労 者 表 彰

活動分野
スポーツ、文化
主な対象
知的障害者（本校卒業生）
団体の規模
卒業生保護者数　５名 元本校教員数　５名 本校教員数　12 名

活動の説明

①活動内容	卒業後、「休日に過ごす場所や楽しめることが少ない。」「学校や仲間とのつながりが無くなる。」などの保護者や本人の要望に当時の教員が応えて、1987 年に活動がスタートしました。 現在は毎月一回日曜日の半日、学校を活動場所として仲間や元教員、現在勤務する教員と一緒に体を動かしたり、音楽やゲームを楽しんだりしています。令和元年度の活動内容は以下のとおりです。 4 月　オリエンテーション、ゲーム・歌　　5 月　学校周辺散策 6 月　選択活動（参加する教員により内容が変わります。スポーツや創作活動、音楽活動などから自分の好きな活動を選択して参加します。） 7 月　バーベキュー　　9 月　選択活動　　11 月　小旅行　　12 月　年末パーティー 1 月　新年会　　2 月　選択活動　　3 月　カラオケ、ふりかえり 参加する卒業生は、興味関心や障害の状況、年齢も幅があり、どの人も楽しめるよう選択活動を取り入れたり、ゆったりとした時間配分にしています。
②活動体制	卒業生の保護者と活動を始めた当時の教員が中心となって会を運営しています。当時の教員は（社福）金沢手をつなぐ親の会事業の同様の活動にも携わり、日程やプログラムの調整などを行っています。本校の元教員と現教員がボランティアとして参加し活動内容を企画し・参加者の指導をしています。
③活動の効果等	毎回参加する卒業生も多く、この活動を楽しみにして自分の生活に組み入れている。特に多くの支援を必要とする卒業生にとっては活動の場が少なく、貴重な機会となっています。

活動の様子

選択活動で G ボールを楽しむ参加者

年末パーティーで校歌を歌う参加者

プロフィール

所在地	静岡県浜松市
団体名	常葉大学 障☆スポ SC サークル
活動名称	障がい者スポーツイベントの開催および参加
こんな活動です	～障がい者スポーツを体験し、楽しみ、広め、支援する～
連携している団体等	大学、スポーツ団体、行政（教育委員会）

奨 励 者 表 彰

活動分野
学習・スポーツ
主な対象
障がい者全般、健常小中学生
団体の規模
教員　２名 学生スタッフ数　30 名

活動の説明

①活動内容	障☆スポＳＣは、障がい者スポーツのイベント・大会のボランティアを行っている。具体的には、各種障がい者スポーツの大会における運営、準備、片付、審判、選手のケア、競技への参加である。5 月には、浜松ボッチャ大会、8 月は磐田市長杯争奪車椅子ツインバスケットボール大会、9 月はわかふじスポーツ大会（ボッチャ競技を支援）、10 月は豊橋ボッチャ大会、電動車椅子サッカー選手権大会、特別支援学校でのみんなでスポーツ教室、11 月はふじのくにボッチャ選手権大会、浜松市障がい者スポーツ大会等で活動している。 また、大学祭（キトルス祭）では、浜松ボッチャ倶楽部 cool の協力を得て、サークルが主体となってボッチャを中心に様々な障がい者スポーツを企画し、近隣の一般の方や子どもたちに体験してもらっている。 その他、ショッピングモールでのイベントやスポーツ交流会等で、ボッチャ体験コーナーを開設している。
②活動体制	常葉大学保健医療学部を中心として、その教員・学生で構成
③活動の効果等	障がい者スポーツをもっと多くの方に体験してもらい、知っていただき、楽しんでもらうことで、障がい者に対する隔たりや壁をなくし、また、障がい者の社会参加の場となることで、バリアフリー社会の構築に貢献していく。地域でのさまざまな活動を通して、障がい者スポーツに触れることによる新たな発見の提供や、学生も障がいのある方・地域の方と関わることで、コミュニケーションの取り方など社会性の向上、また、イベントを自分たちで企画・運営することによる自主性の促進につながっている。

活動の様子

浜松ボッチャ大会での大会運営補助

ショッピングモールでのボッチャ体験会

プロフィール

所在地	熊本県熊本市
団体名	九州ルーテル学院大学ダウン症支援部
活動名称	ダウン症児・者への生涯学習支援活動
こんな活動です	乳児、幼児、小学生、中高生、青年・成人の 5 つの年齢別グループでの遊びや学習、余暇活動等の支援
連携している団体等	大学、日本ダウン症協会熊本支部

功 労 者 表 彰

活動分野
ダウン症児・者への生涯学習支援活動
主な対象
ダウン症児・者（知的障害児・者）
団体の規模
学生スタッフ数　72 名 大学教員　1 名 指導者数　3 名

活動の説明

①活動内容	毎週土曜日の支援活動を中心に、四季イベントとして 6 月に運動会、8 月に夏季キャンプ、12 月にクリスマス会の「内容の立案」「計画作成」「実際の支援」を行っている。 支援活動では、発達段階ごとに 5 つのグループに分かれて、以下の取組を行っている。 ①「ももぐみ」（乳児）：手遊び、紙あそび、ボール遊び、積木等の遊びを中心として、他児との交流を図りながら運動感覚や知的・言葉の発達を促す課題を中心に支援を行っている。 ②「あかぐみ」（幼児）：ひな人形やクリスマスツリーの飾りの制作等の季節に合わせた工作課題、風船バレー等の他者との大まかなルールのある遊び、簡単な調理等を行っている。 ③「あおぐみ」（小学生）：工作、調理等の課題を設定し、工作課題ではペーパークラフトや季節の課題を通して材料や用具の選択肢と使用の幅を広げ表現力を高める支援、調理課題では友だちと協力して調理道具を使用した支援等を行っている。 ④「きぐみ」（中学生・高校生）：工作課題でペン立て等を制作したり、調理課題ではダウン症児が材料を調達して大学芋や生チョコづくり等に励んだり、軽食購入の際に自ら金銭を支払う場を設定したり、カラオケ等の屋外活動等を企画して、余暇の幅を広げるよう支援を行っている。 ⑤「みどりぐみ」（青年・成人）：収入から金銭使途を拡大することや日常の余暇活動を拡充するべく、軽食等の調理、カラオケ等の屋外活動、商店街での食べ歩き等をダウン症者自らが計画し実行できるように促している。
②活動体制	専門分野の教員の指導の下、事前に毎週 1～2 回のグループ会議を実施し、加えて、四季イベントの企画立案では 1 か月前から責任者会議を 2 回、スタッフ全員を招集しての全体通しを 1 回実施している。 学生スタッフは、総リーダー（1 名）の統括の下に各グループリーダー（5 名）を位置づけ、各グループに約 15 名の学生スタッフが配属され支援にあたっている。
③活動の効果等	ダウン症児・者への支援成果として、①乳児期・幼児期のダウン症児の運動感覚や知的・言葉の発達が促されている、②児童期のダウン症児の工作等での表現力が高まりとともに他者との共同作業や容疑の貸し借りにおけるコミュニケーションが促されている、③青年前期のダウン症者が調理や工作課題等に取組み、材料調達等で主体的に買い物に出かけ自らが金銭を支払う態度が形成されている、④青年後期・成人期のダウン症者の余暇が広がり就労等で得た賃金を適切に使用して軽食やカラオケ等で遊興することが促され、自らが活動内容の計画に参画して活動ができることが増大している。また、本支援活動中は、ダウン症児・者は学生にすべて委ねられ、保護者が子育てから解放されたひとときを過ごす（保護者の心理的安定）など、保護者の支援機能も有している。

活動の様子

毎週土曜日の支援活動の一コマ（きぐみ）

運動会の一コマ（あおぐみ）

プロフィール

所在地	鹿児島県鹿児島市
団体名	選挙コンシェルジュ鹿児島
活動名称	選挙コンシェルジュ鹿児島
こんな活動です	大学生と高校生の若者の インクルーシブ社会をめざした主権者教育活動
連携している団体等	特別支援学校、大学、短大、社会教育関係団体、 行政（鹿児島市選挙管理委員会）、 鹿児島市明るい選挙推進協会

奨 励 者 表 彰

活動分野
学習、啓発活動
主な対象
すべて（特に発達障害）
団体の規模
大学教職員　　１名 学生スタッフ　30 名 市役所職員　　６名

活動の説明

①活動内容	▪活動目的：鹿児島市で行われる市長選挙や市議会議員選挙だけでなく、国政や鹿児島県の選挙啓発のために、どのような啓発を行うのかについて話し合いやワークショップをしたり、選挙啓発の社会教育関係団体「鹿児島市明るい選挙推進協会」と合同で学習会を行い、次の啓発活動を行なっている。 (1) 大学の期日前投票所の利用促進に関する企画を行うこと。(2) 若年層に対する啓発企画及びその実施をすること。(3) 投票マナーの啓発を行うこと。(4) 鹿児島市選挙管理委員会が行う常時啓発活動の補助を行うこと。 年間活動としての企画・計画立案・啓発活動は、鹿児島市内の学校や人が多く集まる場所だけでなく、県外の若者の選挙啓発に関わるフォーラムにも積極的に参加している。 ▪活動内容：①ミーティング（活動内容を決めるためのグループワーク）、②鹿児島市明るい選挙推進協会と共同での話し合い、③若者と政治や選挙を語る会という、鹿児島市内の大学生や高校生たちの主権者教育のイベントのファシリテーター、④選挙を考える市民のつどいという、市民への選挙啓発、⑤選挙啓発のためのポスターやテーブルポップの企画立案、等
②活動体制	選挙コンシェルジュ鹿児島の事務は、鹿児島市選挙管理委員会のなかに設置されている。鹿児島大学は鹿児島市との連携協定のもと、鹿児島大学教育学部准教授・久保田治助が学習組織を企画・コーディネートし、インクルーシブ社会における若者の選挙啓発のために、鹿児島県立鹿児島高等特別支援学校と共同で障害のある若者に対応した選挙と啓発方法、および選挙啓発を行う障害学生の支援体制の構築を行なった。障害のある若者の選挙活動の活動には、障害に対しての理解と、障害者への選挙行動をどのように充実させるのかの２点から、鹿児島市選挙管理委員会が PDCA サイクルを徹底し、特にプログラムの作成、実際の行動を図で表す、フィードバックなどを円滑に行うようにしている。
③活動の効果等	活動の効果は、障害のある若者自身の学びと障害のある若者への理解の 2 つの側面があるが、①鹿児島県立鹿児島高等特別支援学校の学生が主体的に選挙に関わることによって、障害のある若者が市民社会を構築するための成人教育となり、障害のある「若者」から「大人」への変化の学びと学びの場となったこと、②これまで鹿児島市行政だけでなく、多くの行政が行なっている若者のボランティアやインターンシップ活動に障害のある若者を積極的に受け入れるための障害への学びと対応方法について理解が深まり、広く行政と地域社会のインクルーシブを進めることができたこと、③障害のある若者が活躍していることが広く知られることとなり、市民の障害のある若者への理解が深まったことの３点が挙げられる。

活動の様子

大型商業施設での啓発活動

街頭啓発のためのウチワ作成

プロフィール

所在地	沖縄県中頭郡西原町
団体名	琉球大学博物館（風樹館）
活動名称	大学博物館による特別支援学校 及び院内学級への教育支援
こんな活動です	大学博物館による近隣の特別支援学校や社会福祉施設、子ども医療センター内の院内学級への教育支援
連携している団体等	特別支援学校と学級・病院・社会福祉施設

功 労 者 表 彰

活動分野
学習
主な対象
すべて（主に身体障害・知的障害・発達障害）
団体の規模
大学助教　１名 非常勤職員　１名 学生ボランティア（不定数）

活動の説明

① 活動内容	特別支援学校及び院内学級等への教育支援を目的に、主に理科教育を中心とした大学博物館での学習プログラムの提供と院内学級への出前授業を行っているほか、生徒の障害に応じた教育プログラムと教材開発にも取り組んでいます。 2018 年度には、昆虫の出前授業の一環として特別支援学校と沖縄県立子ども医療センターで、病院用に開発した密閉標本箱を用いた実物標本による「世界の大昆虫展」を実施しました。 また、最近では地域のデイケア施設、老人ホームなどの福祉施設の方々による利用も増加しており、ビオトープや館内の古民具などを用いた回想法などとも関連させた生涯学習プログラムなども提供しています。
② 活動体制	活動の主体は、琉球大学博物館のスタッフと学内のボランティア学生ですが、授業内容によっては関連する他学部の研究室とも連携しています。
③ 活動の効果等	博物館の実物標本を用いた授業やビオトープでの自然体験活動は、生徒たちの学習意欲の向上のほか、障害を持つ子供たちの生活の質を高める上で不可欠な感性の発達にも繋がっています。10 年以上に渡る教育支援活動によって、このような効果を実感した教師らの口コミによって、年々当館で教育支援を受ける学校も増加しています。また、ボランティア体験をきっかけに特別支援学校の教師を目指す学生もおり、学生の人材育成にも寄与しています。さらに、地域のデイケア施設や病院のリハビリ教室など、これまであまり大学博物館を訪れることのなかった地域の人たちに、生涯学習やリハビリ活動などの様々な目的で当館を利用して頂けるようになってきました。

活動の様子

活動の様子１

活動の様子２

お知らせ

文部科学省Webサイトでは、障害者の生涯学習の推進に関する情報を公開しています。是非ご覧ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/index.htm

障害者の生涯学習 検索

or